

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	505C ²	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.495	△RG	0.038	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：505C²

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 番

5 インチ

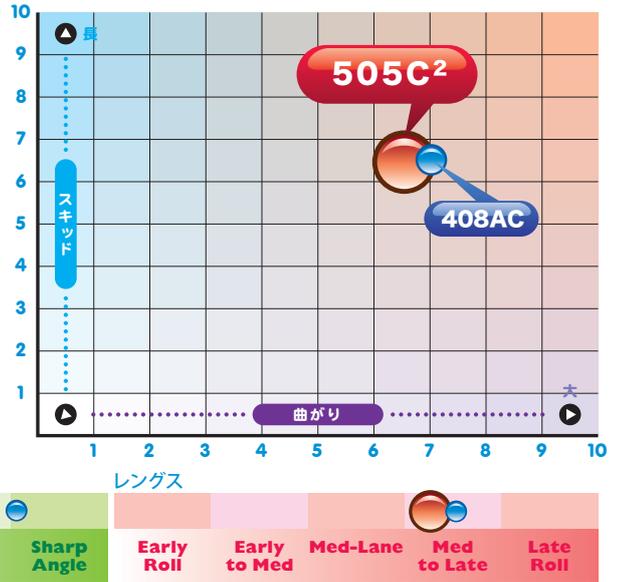
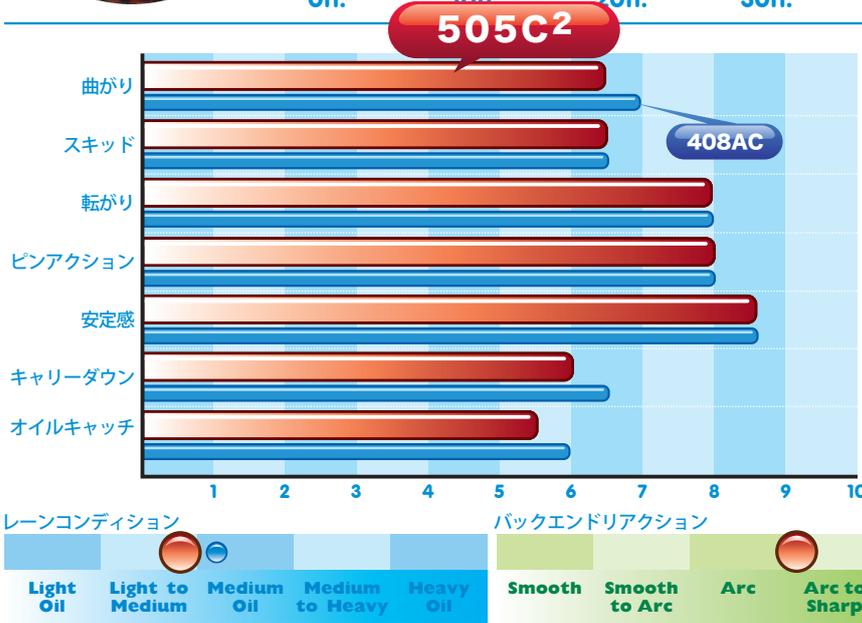
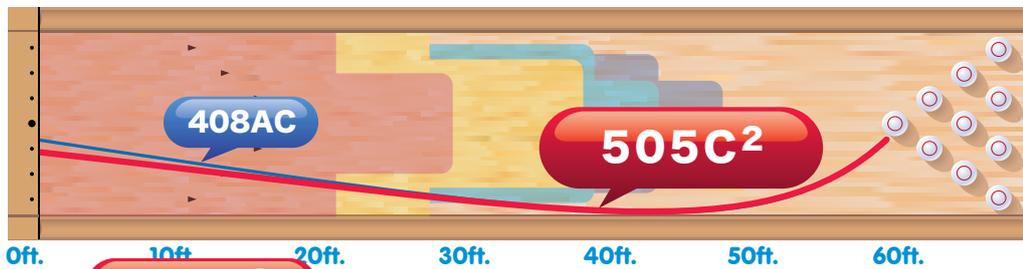
比較対照ボール：408AC

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 番

5 インチ



ボールの評価

505C²(スクエア)、この新しいボールによるトラック社のコンセプトは、オリジナルの505Cより良いバージョンを作製することには他なりません。その目的を達成するためにModified Kinetic=Shuttle Coreを再び採用したのも、オリジナルの505Cの性能をできるだけフィードバックさせたかったのでしょう。カバーストックが”Gen MC” (Moderate Continuation)に変更されたことで、505Cで使用したカバーストックと比較して、より少ないオイルで直進性を保つことができます。

この505C²のパフォーマンスを知るために、408AC、508A、503C、300C等、それぞれの領域、カテゴリー別にスキッドレベルやキャッチ、ドライゾーンでの反応を確かめてみました。私が感じたイメージではスキッドは平均的な”4”レベルよりやや長く感じますが、曲がり始めが弱く感じるわけでもなく、しかしややオイルが多い場合には曲がり不安定になる傾向があり、遅めのコンディションでは手前のスキッドの軽さとバックエンドのグリップのバランスの良さから考察するに”やや遅めのコンディション”がこの505C²の適正であろうと判断しました。今回採用されたGen MCカバーストックはさほど弱いカバーではありませんが、細かいポリッシュ加工も今回のパフォーマンスに関わっているのでしょうか。試しにやや光沢を消して投球すると、ミディアムコンディションを中心に万能の運動性を誇るボールへとシフトチェンジすることができます。やや遅めのコンディションへの対応を考えるのであれば箱出しのまま、オイルに対して過敏に反応を示すのであれば、やや光沢を消す選択も良いのではないかと思います。必要なのは箱出しのままの性能が全てではなく、あくまで”自分流”に性能を整えてこそとお考えください。

特記事項

オリジナルの505Cを超えるべくModified Kineticを採用し、”5”シリーズに新たなる息吹きを感じるボール。やや遅めのコンディションで使用するのか、オールラウンドに使用するのか、それは貴方次第です!